

発言項目



※紙面の都合上、1人2問以内で掲載しています。質問内容は、発言議員本人の提出によるものです。

◎発言順に掲載

- 石橋竜史 (自民党・保守クラブ・安佐南区)
 - 核兵器廃絶へ向けた広島市の取り組み
 - 広島市の都心部の在り方
- 木戸経康 (自由民主党・安佐北区)
 - 子育て家庭に対する相談窓口
 - 不妊治療費助成
 - 高齢者福祉
 - 安佐北区のまちづくり
 - 有害鳥獣対策
 - 広島高速5号線
- 原 裕治 (公明党・西区)
 - 平和への取り組み
 - 平和記念公園内の遺構の活用
 - 地球温暖化対策
 - 少年サポートセンターひろしま
 - 特別支援教育の充実
 - 宿泊施設の容積率緩和制度
 - 無料Wi-Fiの拡充
- 沖宗正明 (市政改革ネットワーク・安芸区)
 - 少子化への対応
 - 広島市のバランスシート
 - 医療介護
- 藤井敏子 (日本共産党・安佐南区)
 - 平和都市ひろしまの役割
 - 伊方原発再稼働
 - 介護予防・日常生活支援総合事業
 - 高齢者公共交通機関利用助成制度
 - ボランティア活動等ポイント制導入

2020ビジョンの実現へ向けて

問 平和首長会議の掲げる「2020ビジョン」(核兵器廃絶のための緊急行動)の目標年度が目前に迫っているが、市は現状を如何に捉え、また実現へ向けて新たなキャンペーンなどに着手する考えはあるのか。

答 平成27年11月の平和首長会議で目標年度2020年は変更せず、核兵器廃絶の実現に最善を尽くすとした。世界の為政者への被爆地訪問の呼びかけなどを展開し、2017年に核兵器禁止条約の実現に向けた交渉が開始される見通しのため、全国連加盟国に対し働きかけを強めた。平成29年8月の長崎での総会で新たなキャンペーンを含め今後の行動計画についても検討する。



石橋竜史 自民党・保守クラブ

問 現在、本市が進めるサッカースタジアムの建設について、「政治は日程である」とまで言われるが、実際には「何年後くらいを目途に、完成を目指しているのか?」

答 今後のスケジュールは明確に言えないが、一般的に基本計画から完成まで約5年かかる。地元との意見交換等をしつかり行い、できるだけ早く4者の意見交換の場を設け、建設候補地を確定したい。



木戸経康 自由民主党

安佐北区のまちづくり

問 白木・高陽・安佐地域から出されたまちづくり提言書をどう受け止め、実現に向けてどのような姿勢で取り組むのか。

答 同提言書は市が理想とするまちづくりを实践された成果で、地域の思いと市の思いを密にする素地ができた証と受け止めており、安佐北区のまちづくりを進める上で最大限尊重したいと考える。現在、提言の内容を踏まえ、いかにして人口減少に歯止めを掛け、地域の活性化につなげていくかといった観点から、市の取り組みについて全庁を挙げて検討を進めているところである。今後、その検討結果を踏まえ、地域と市が意思疎通を図りながら着実に事業展開を図りたい。



木戸経康 自由民主党

問 特定不妊治療費助成について、他の自治体が行っているように、国の助成制度に本市独自の上乗せを検討してはどうか。

答 体外受精および顕微受精の特定不妊治療は治療費用の一部が国から助成されるが、母親1人につき6回までの制限があり、第2子以降の治療が自己負担になることもあるなど若い世代にとっては経済的負担が大きい。出生率向上の観点から、他の自治体の例も参考に、助成内容の充実について検討したい。



平和記念公園内の遺構の活用をどうするのか

問 平和記念公園の地下に眠る旧中島地区の町並みの遺構の活用を、被爆75周年を念頭に置きながら検討することだが、どのように取り組んでいこうとしているのか。

答 同地区の遺構の活用については、被爆75周年の展示を念頭に置きながら、発掘場所、展示や管理の手法などの検討を進めているところであり、来年度予算において議員からご紹介のあった長崎市の被爆地層の展示事例等を調査・研究するよう措置していきたいと考えている。



発掘された牛乳瓶やガラスなど



原 裕治 公明党

問 地球温暖化問題に国際社会への貢献をすべきでは

答 世界的知名度がある本市には、人類共通の課題である地球温暖化の問題について国際社会に貢献していく必要があるのではないかと考える。この点についてどう考えているか。

答 人類存続に係る問題であり、平和への取り組み同様貢献する使命があると認識している。27年は都市間の地球温暖化対策として最大規模の連携である「首長誓約」に参画、28年は「イクレイ」日本支部理事に就任した。今後はそれらを通じて市の取り組み等を発信し、環境問題に係る国際会議に参加する等して温暖化防止に向けた取り組みを加速させる役割を担っていききたい。

少子化への対応

問 少子化への対応は待ったなしである。少子化対策としての「世界に誇れる『まち』広島」人口ビジョンの具体化についてどのように考えているか。

答 同ビジョンは、「世界に誇れる『まち』広島」創生総合戦略を推進する基礎であり、まち全体で人口減少についての認識を共有し、目指す将来の方向を確認するために策定したものである。市としては同ビジョンで示した将来展望を見据えつつ、同ビジョンと一体になって実施した総合戦略に基づく施策・事業の効果をもとに、継続的に改善を重ねていくことにより、地方創生の取り組みを着実に進めていく。

外科系救急医療体制

問 外科系救急医療体制における病院群輪番制の維持は厳しい。既存の設備を利用できる舟入病院内に外傷センターを新設してはどうか。

答 外科系救急医療体制は、夜間軽傷患者受け入れ体制の構築が喫緊の課題であり、医師会や行政、関係団体等で構成する市連合地区地域保健対策協議会で、27年度から救急診療所の整備などの検討を行っている。今後は整備の具体化について、同協議会で早急に検討を進めていきたいと考えている。



舟入市民病院

核兵器禁止条約を求めるヒバクシャ国際署名に協力を!

問 2017年に国連で核兵器禁止条約の締結交渉を開始する決議案が、採択された。この画期的な流れを後押しするため、ヒバクシャ国際署名にどのように協力していくのか。

答 平成28年に開催した第6回平和首長会議国内加盟都市会議総会において、賛同・協力するという決議を行った。同会議で22年から取り組んでいる「核兵器禁止条約」の交渉開始等を求める市民署名活動で集めた署名とヒバクシャ国際署名を共に、国連に提出することとしている。現在、ヒバクシャ国際署名の事務局である日本原水爆被害者団体協議会などと協議を行っており、同署名を広くPRする方向で準備を進めている。



藤井敏子 日本共産党

問 いきいきタクシー、パスピー等助成制度は継続を!

問 高齢者にとって買い物、通院も立派な社会参加である。高齢者が地域で自由な社会参加を応援する制度として継続するべきだと考えるがどうか。

答 今回の制度の移行は、町内会や老人クラブなど地域団体の活動の活性化や充実、地域コミュニティの再生につながるものと考えている。移行は、段階を追って着実かつ円滑に進めていく必要がある。既存の交通費助成制度からの移行期間は、ポイント制導入後の実施状況をみながら、適宜必要な検討を行い、柔軟に設定していく。

サッカースタジアム

問 中央公園広場を候補地として検討することだが、今後どのような検討を行うのか。また、候補地の決定に向けて、どのように進めていくのか。

答 現在、3者の作業部会で類似スタジアムの事例調査や状況把握等を行っている。近々基町連合自治会で質問状を出されることなので、地元の見解等を具体的に聞き、課題を整理することとしている。その上で他の候補地同様、同広場に整備するとした場合の対応方法等について、同自治会と意見交換を行いながら検討を進め、できるだけ早く4者の意見交換の場を設け、候補地を確定したいと考えている。

障がい者の就労支援

問 障がい者を支援する「地域活動支援センターIII型事業所」は市の補助金に頼る運営をしているが、精神障がい者特有の事情があり、補助金が不足し運営が困難になっていると聞く。実情にあった補助金制度に変え、その取扱基準を周知するなど見直す考えはあるのか。

答 精神障害者の特性を考慮した上で国の基準に則り、どこまで補助制度の弾力的な運用ができるか、検討したいと考えている。その結果、補助制度の運用基準を変えた場合、Q&Aを改訂するなどして周知を図り、事業所の円滑な運営ができるよう努める。



森本健治 広島市クラブ

